

科目名 (科目番号)	免疫検査学実習 (102163)	教員名 藤田 和子 他	学科等	臨床検査	必修	履修年次	2
			曜日・時限等	時間割表参照	単位数	1	
			オフィスアワー		各担当教員シラバス参照		
授業概要	さまざまな免疫反応の基本原則を理解し、その応用として臨床検査の場で使われている反応を実際に実習する。						
準備学習	毎回の授業の到達目標と学習内容を十分に理解しておくこと						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	免疫検査の基礎	実際に連続希釈を行って、免疫学的希釈法、抗体希釈・抗血清の表記法を理解する。				
	2	直接凝集反応(PB反応)と溶血反応	赤血球凝集反応の抗体価の意味と補体の働きを理解する。				
	3	間接凝集反応(TPPA、RPR反応)	担体を用いた間接凝集反応の原理を理解し、梅毒血清反応の種類を知る。				
	4	沈降反応-1(オクターローニ法、免疫電気泳動法)	沈降反応における最適比、沈降線の位置と濃度・分子量の関係を理解する。				
	5	沈降反応-2(オクターローニ法、免疫電気泳動法)	正常な血漿蛋白像と働き、異常パターンを理解する。				
	6	標識抗原抗体法-1(酵素抗体法)	さまざまなEIA法の原理を学び理解する。				
	7	標識抗原抗体法-2(蛍光抗体間接法)	抗核抗体を蛍光標識二次抗体で検出する原理を学び、自己抗体について理解する。				
	8	細胞性免疫反応-1(E-ロゼット形成試験)	ロゼット形成試験を通して、細胞性免疫、免疫担当細胞について理解する。				
	9	細胞性免疫反応-2(フローサイトメトリー)	蛍光抗体を使用したリンパ球の種類分けを理解し、その解析法を学ぶ。				
	10	放射性同位元素取扱い施設の基準	法律に定められた、放射線管理区域、取扱い施設について理解する。				
	11	ラジオイムノアッセイ、コールドラン	RI標識抗原抗体測定法について理解、放射性物質を入れずに全く同じ実験を行い、手技の習熟を知る。				
	12	放射線のさまざまな測定方法	放射線の単位、液体シンチレーションカウンターの原理、サーベイメータについて理解する。				
	13	核種による汚染検査	核種によって異なる遮蔽方法、汚染検査について理解する。				
	14	施設見学	検査に放射性物質を取り扱う施設を見学し、学んだ知識の徹底を図る。				
15	検査結果のまとめ・評価	放射線同位元素についてまとめ、生理的・臨床的意義を習得する。					
成績評価の方法・基準	レポート(30%)、筆記試験(70%)によって総合評価する						
教科書	実習用テキスト配布						
参考図書	最新臨床検査学講座 免疫検査学		窪田哲朗、藤田清貴、細井英司、梶原道子 編		医歯薬出版社		
教員からのメッセージ	実習は休まないこと、実習前に実習テキストを予習すること、試験管の中で現在どんな反応が起こっているか考えること、判らないことはその場で聞くこと、レポートはその日のうちに書くことを実践すれば、必ず実力がつきます。レポートはコメントを付して返却します。						